

所属・資格 哲学科・教授

申請者氏名 永井 均

研究課題		哲学におけるタテ問題とヨコ問題
報告の概要	研究目的 および 研究概要	精神と身体、主体と対象といった異質の物間の関係を考察するのがタテ問題であり、同じく主体に分類されるもの間に存在する現実の私（自我）と他の私（他我）との関係を考察するのがヨコ問題である。従来の哲学研究においては、この二つの問題は混同されてきた。他我問題というものは存在したが、それは他人という対象が心を持つとされる根拠を考察するタテ問題であり、そこに暗にヨコ問題が紛れ込ませていた。私の研究は、この混同を否定し、ヨコ問題をヨコ問題として研究する方法を開発するものである。たくさんの自己たちのうちにひとりだけ異質なこの私が存在しているとは（あるいはまた、たくさんの現在のうちにこの現在が存在するとは）どういうことなのか、といった問題を、他人が意識を持つとなぜ言えるのかといったタテ問題とは異なる問題として研究することがその課題となる。
	研究の結果	この問題と超越論哲学における統覚の理論との関係を明らかにした。 自己意識が成立するためには諸々の意識体験を一つの客観的世界についての体験としてまとめ上げ、さらにその自己意識的主体それ自体をもその客観的世界のうちにその一員として位置づけるような、そういう「統一」が必要であるとされる。このようにして、世界には主体と客体が成立するのだが、しかし実は、私が自分自身を他者たちから識別して認知・同定する際には（すなわちヨコ問題においては）、この超越論的位置づけはまったく使用されない。その場合にはこうした超越論的位置づけとは独立の直接的・独在論的基準を使うことができるし、実のところはそれしか使うことができないのである。 この結果をさらに、バラモン教と仏教における「真我」と「無我」との関係の問題に繋げる考察をおこなった。
	研究の考察・反省	以上の研究成果は、これまでの哲学研究において気づかれていなかった、極めて重要な知見であると私は考えるが、しかし本当にこれまでにこのような知見が存在しなかったかを、これからさらに研究をすすめて、確かめていかなければならない。バラモン教と仏教における「真我」と「無我」との関係の問題に繋げる考察についても同様である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日／場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 ネルケ無方と共著、『哲学する仏教』、サンガ出版、2019年11月1日 藤田一照、山下良道と共著、『仏教3.0を哲学する』、春秋社、2020年2月20日